

## 県中域内の定着確認シートの活用例

以下は、2月3日に行われた学力向上担当者等研修会で、各学校から出していただいた定着確認シートの様々な活用です。今後、定着確認シートを有効に活用していくために、参考にしていただければと思います。

課題として、定着確認シートのつますきを踏まえ、教師の授業改善・指導方法の改善につなげていく難しさが、各校からあげられていました。「4 授業改善、指導法改善のための組織的な取組」には、その解決のためのヒントがありますので参考にし、児童・生徒の学習内容の定着だけでなく、授業改善、指導方法の改善、学力向上策の改善につなげていただければと思います。

### 1 定着確認シートを円滑に実施するための取組

- 教育課程の中に位置付ける。
- 担当がダウンロードして配布したり、保管したりして、いつでも使えるようにする。
- 印刷を担当するなど、分担を決めて行う。
- 実施する時期や期間を学校全体で決めて行う。
- シートを教科ごと、学年ごとにファイルに綴じて使いやすくする。
- 定着確認シートを問題ごとに切って印刷し、いつでも使えるようにする。

### 2 定着確認シート活用に関する取組

#### 問題の出し方もいろいろ工夫

- 一問ずつ活用する。
- 一部ずつ活用する。
- 大問ごとに活用する。

#### 授業の中で活用

- 発展問題として活用する。
- 活用力を高めるために活用する。

#### 授業以外の様々な時間に活用

- 学期末テスト前後に活用する。
- 定期テスト、単元テスト作問のヒントにする。
- 家庭学習の課題として活用する。
- 「学力向上タイム」など、特別な時間を設定して活用する。
- 長期休業中の課題として活用する。
- 担任出張時に活用する。
- 朝の時間、放課後に活用する。

#### その他、たくさんの工夫が見られました

- 中学校3年生に復習として取り組ませる。
- 定期テストとして活用する。(中学校)
- 上の学年のシートを上位の児童・生徒に発展問題として解かせる。
- 学テの分析から落ち込んでいる内容を重点的に行う。
- 解答解説を十分に活用する。(定着確認シートの「指導の工夫」の、「授業で大切にしたいポイント」を過去のものも含め活用する。)

次年度から、定期テストに定着確認シートを活用するという中学校もありました。定期テスト問題として活用できる部分は、ぜひ、ご活用ください。

- ・活用問題の解決方法を学び合わせる。
- ・発展的・補足的な学習の時間として、国語・算数、各10時間ずつ時数を確保して取り組む。
- ・タイムプレッシャーをかけて問題に取り組ませる。
- ・昨年度の定着確認シートをプレ定着確認シートとして実施し、補充した後、今年度の定着確認シートを実施する。
- ・過去問題を活用することで、各単元の学習と同時に活用する。
- ・学習評価に活用する。(活用力の評価)

### 3 実施後、学習内容の定着を図るための取組

- ・解説の時間を設ける。
- ・問題を解説し、再度取り組ませる。
- ・個々の児童・生徒の結果を累積し、指導する。
- ・落ち込みが見られた部分について、授業や家庭学習において、再指導を行う。
- ・正答率の低かった問題の解決方法をグループで学び合わせる。
- ・類似問題を作成して行う。
- ・定着率の低かった問題を「再チャレンジ問題」として実施する。
- ・直後だけでなく、しばらく時間をおいてから再度行う。

アップされるのが、単元の学習中に間に合わない場合が多いと思います。その場合、過去の問題を使うことができます。そして、定着の確認には、今年度アップされたものを使ってはいかがでしょうか。

定着確認シートのつまずきを授業改善につなげて組織的に行っている例です。

### 4 授業改善、指導法改善のための組織的な取組

- ・4～6年の担任だけでなく、全員で情報交換をし、系統性を考慮しながら日々の授業改善や指導に生かす。
- ・学力向上の中の話合いで、つまずきを取り上げ、下学年もその部分についての指導を重点的に行う。
- ・授業改善についての「分析シート」を作成することによって、学校全体で課題を共有し、学力向上を図る体制づくりを行う。
- ・定着確認シートの採点、評価を全職員で分担して行い、その結果から課題を明確にし、どのような指導が必要かを話し合って授業に生かす。
- ・通過率50パーセント以下の問題のつまずきの原因を分析し、全学年の対策について全職員で話し合う。
- ・担任全員が問題傾向を把握することができるように、定着確認シートのコピーを毎回全員に配付する。
- ・教科の中で落ち込んでいる領域を現職教育で取り上げる。

### 5 その他の取組

- ・家庭学習や長期休業の課題として取り組み、「求められる学力」を保護者にも理解してもらう。
- ・教育委員会独自の反省用紙に結果と考察を報告することで授業の改善を図る。